

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 1 愛犬のおならしてあるキャンプかな
- 2 挨拶やビールのジョッキぶつけあひ
- 3 アイロンをかけハンカチの過去を消す
- 4 青薄寄らば斬るぞと葉をゆらす
- 5 青空の青を散らかし花辛夷
- 6 青田風青田抑へつつわたる
- 7 青よりも赤が辛いぞ唐辛子
- 8 赤い羽根募金黄色い声揃へ
- 9 赤とんぼゆびをはなれる
- 10 赤とんぼ空中給油してをりぬ
- 11 赤とんぼ水面の己が影を撃つ
- 12 秋団扇エアコンの世に不貞腐れ
- 13 秋田小町コシヒカラせて稲を刈る
- 14 秋日和鶏をいぢめる鶏のみて
- 15 飽きもせず月に餅搗く兔さん
- 16 あきらかに尻餅を搗きはたたがみ
- 17 アにアクセント童謡のアカトンボ
- 18 朝帰りして言訳の初芝居
- 19 朝寝にも限度と言ふがありませう

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 20 足といふ肉塊を抜き登山靴
- 21 汗のシャツ顎のあたりでつつかへる
- 22 遊びありけり剪定の鋏の音
- 23 あたたかし転がす石のすぐとまり
- 24 渾名は空つ風本名は北風で
- 25 新しい足袋とは板のやうなもの
- 26 新しい皮 膚夏の記憶を剥ぎとれば
- 27 暑いのがきらひな人に夏来たる
- 28 熱爛や鼻で暖簾をこじあける
- 29 熱爛のゆびに耳たぶ抓まれる
- 30 熱爛の一步手前をくれないか
- 31 穴だけの眼に睨まれて目刺食ふ
- 32 吾に食つてかかる子猫の目のつぶら
- 33 兄の大股私の小股日脚伸ぶ
- 34 アネモネの色 プランタのパレットに
- 35 あのひとは時間にルーズ木の実降る
- 36 吾の胸に少女くりと赤い羽根
- 37 逢引の目深に被る夏帽子
- 38 油売るひとみて土手のあたたかし

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 39 あぶらぎる秋刀魚一匹たひらげて
- 40 油蝉樹皮の一部としてありぬ
- 41 雨乞ひに応へ過ぎたる梅雨出水
- 42 あめんばう等身大の影を踏む
- 43 あめんばう水の土俵に四股を踏み
- 44 あめんばう生涯四股を水に踏み
- 45 鮎喰ひの上手なひとと下手なひと
- 46 新玉や見覚えのある猫に会ふ
- 47 蟻と蟻内緒話のごつつんこ
- 48 蟻同士何を話したのでせうか
- 49 アルミサッシずらして隙間風体験
- 50 生れてすぐ競ふ燕の子らの口
- 51 あふむけにされ放心の捨て案山子
- 52 安全と判断のごきぶりの接近
- 53 あんたはんなんはや蜃気楼出とがやぜ
- 54 アンテナの耳よく動く袋角
- 55 あんぱんがお空を揺らし運動会
- 56 いかづちにうしろあたまを小突かれる
- 57 息白く英会話教師なにか言ふ

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 58 息白く子らは吹出しマークつけ
- 59 生き物をどこかに隠し山眠る
- 60 イケメンに元の字の付き敬老日
- 61 石ころのふたつ手にある休暇明
- 62 石段を音符のやうに木の実落つ
- 63 居候の自覚はあらずツバクラメ
- 64 一期一会よ肩に来し初蝶も
- 65 苺食ふ蒂を上手に積み重ね
- 66 いちばんに花疲れして首の骨
- 67 一枚づつならべ置くかに水を打つ
- 68 一枚は議論の好きな花筵
- 69 一戸建負ひ寄居虫の転居ぐせ
- 70 一刀両断大根のふくらはぎ
- 71 一匹の離脱もなくて翳雲
- 72 一匹の蚊にストーカーされてゐる
- 73 一匹が動けば蝌蚪のみな動く
- 74 いつまでも硬い青林檎とワタシ
- 75 糸うりと言ふには太き糸瓜かな
- 76 イナバウア頭上に大花火揚がり

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 77 イナバウアー状態翳雲見あげ
- 78 犬の名を考へてゐる春の風
- 79 胃袋の用意万端初鯉
- 80 いもうとの浴衣の金魚泳ぎ出す
- 81 芋炊の汁短冊にこぼされんよ
- 82 芋虫の美人にあらむ緑濃し
- 83 色黒を褒められてゐる黒目張
- 84 色黒をきはめてをりぬ寒鴉
- 85 色恋を卒業出来ず生身魂
- 86 引退の時期を失してゐる案山子
- 87 引退覚悟激瘦せの古曆
- 88 引力を知らず蒲公英絮毛とぶ
- 89 引力の平等藤の房垂れる
- 90 引力の言ひなりに垂れ糸瓜らは
- 91 ウエストは太いがよろし初鯉
- 92 魚偏に旨を添はせ鮓の文字
- 93 うぐひすの美声すこしくらんぼうに
- 94 うぐひすに庭をとられてしまひけり
- 95 うごくお花見吊革につかまつて

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 96 後ろから押されて滝の水落ちる
- 97 羅に懲りて厚物の服
- 98 羅を着て見え透いたことを言ふ
- 99 うそ寒と言へども寒さ嘘でなし
- 100 ウソ寒の季語を漢字で書いちやだめ
- 101 嘘つきが正直を言ふ四月馬鹿
- 102 嘘つきの喉にも仏桃の花
- 103 打ち水の一枚宙にひろげたる
- 104 撃ち尽くしたる水鉄砲に水籠める
- 105 腕まくり寄鍋奉行の装束は
- 106 うなぎ食ひつかみどころのない話
- 107 うなぎ焼く栄養の音滴らせ
- 108 縁談のまとまる気配草の餅
- 109 海原をもちあげてみる鯨かな
- 110 旨さうに変はり果てたる焼秋刀魚
- 111 海亀の甲羅を亀の子で洗ふ
- 112 うめですかさくらですかこの裸木は
- 113 梅の雨実梅に弾き返さるる
- 114 梅の園そぞろそぞろと歩きけり

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 115 売り声の語尾をひきずり豆腐売
- 116 愁ひとは文字の上でも秋のもの
- 117 噂話も風も筒抜け夏座敷
- 118 炎天を行くとはくぐりぬけること
- 119 エアコンか扇風機かとうちは揉め
- 120 エイプリルフルに告白するなんて
- 121 エジプトの首都で使ひし暖房具
- 122 枝にひつかかつて昇りきれぬ月
- 123 エッチは微罪猥褻は重罪西鶴忌
- 124 絵日傘を畳めば花の絵もしぼむ
- 125 襟巻きのとかけに夏と冬の季語
- 126 縁側の日脚一寸づつ伸びる
- 127 冤罪をはらせぬままの盗人萩
- 128 園児の手結んでひらけば風光る
- 129 遠足の子には勝てない交差点
- 130 炎昼の犬や地べたに顔を置く
- 131 炎天の化石のさかな口ひらく
- 132 炎天に穴を空けたるホームラン
- 133 炎天の野球部用の薬箱

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 134 炎天の細片蔭に身を嵌める
- 135 炎天を疾く過ぐ揚羽蝶の影
- 136 燕尾服つばくろたちの普段着は
- 137 遠雷をとらへし耳の先尖る
- 138 押しあひへしあひわさび田のわさびたち
- 139 扇にも後期高齡秋扇
- 140 凹凸の凹に翳ある春の泥
- 141 追へば逃げあの娘のやうに逃水は
- 142 大男コガタアカイエカに悩む
- 143 大方は大根役者村芝居
- 144 大方は切られてしまひ百合の蕊
- 145 大きいみかん小さいみかんみな甘し
- 146 おほげさに驚き蝌蚪の国の民
- 147 大花野樹海のやうな闇を持ち
- 148 御降りのうちなり屋根のドカ雪も
- 149 お忍びはできず点灯の恋螢
- 150 落ちさうになれば吊り上げられ雲雀
- 151 落ちたけど東大受けたほどの子よ
- 152 落ち椿進行形と過去形と

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 153 落ちてすぐ蟻が検死の油蝉
- 154 お中元過剰包装の芯にある
- 155 おでん選ぶつべこべつべこべつべこべ
- 156 お得意の縦横無尽青田風
- 157 男の手客に部厚く檸檬切る
- 158 男ものハンカチ女の足拭ふ
- 159 威銃村いちばんの空威張り
- 160 音無しの構へにありぬ夜這星
- 161 をどり食ひなり白魚に見られつつ
- 162 己が尾を咬み襟巻の銀狐
- 163 おのがかけ踏めば前進星月夜
- 164 おのれを抱き朝寒の腕二本
- 165 お花見はお見合だつたかも知れぬ
- 166 お日様に干せば布団は冬の季語
- 167 お引越スミレは移植鋤に載り
- 168 お目当てのシャツを掘り出し更衣
- 169 泳ぐこと忘れ浜辺の水着たち
- 170 オルガンの音のギイギイ春が来た
- 171 折れば血の出さうな色の寒椿

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 172 追はれしを忘れたふりの稲雀
- 173 御曹司微熱のままに風の盆（風邪のボン）
- 174 音量調節絶対不可能蝉時雨
- 175 かあちやんがごちやごちやゆふとる夏の朝
- 176 回転寿司のベルトに威張り本鮪
- 177 解放のドアより太き隙間風
- 178 蛙前進スタンプを押すやうに
- 179 蛙てふ文字蛙の字に潜む
- 180 化学反応せしかに町の夕焼ける
- 181 かき氷どの部分からくづさうか
- 182 かき氷あけたる口にはこぼるる
- 183 陽炎に顔を映せば歪むなり
- 184 蜉蝣死すその長肢をもてあまし
- 185 風花の舞ひに伴奏曲あらず
- 186 カサブランカ活けて玄関狭くする
- 187 過剰なる期待にしなり七夕竹
- 188 ガラス窓磨いて秋の空嵌める
- 189 風で身を切ることに決め冬帽子
- 190 風に応へる青薄の金属音

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 191 風の撥捌きの冴えてぺんぺん草
- 192 風の兄弟長男が春一番
- 193 風止んでをりぼうたんゆれてをり
- 194 片蔭に連れ来し影もひと休み
- 195 片陰を行けばいいのにあのひとは
- 196 硬き音東風といふ名の風なれば
- 197 硬くて元気新調の夏帽子
- 198 肩凝るよあたまでかちのひまはりは
- 199 肩にあたまに降らせ放題木の葉雨
- 200 肩の蠅家来のやうについて来し
- 201 かつて貧乏いま贅沢の麦ご飯
- 202 カサブランカ活けて玄関狭くする
- 203 金遣ひ荒き龍馬の懐手
- 204 かまきりの雌を争ふ刃傷沙汰
- 205 かまくらの内装工事尻を出し
- 206 神様がインクを垂らし夏の水
- 207 紙風船突いて天井もちあぐる
- 208 紙を漉く人工の波起こしては
- 209 画用紙の半分以上秋の空

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 210 殻透けし蝸牛隠しごとならず
- 211 ガラス窓磨いて秋の空嵌める
- 212 カレー派と寿司派で揉める子どもの日
- 213 枯草をうまさうに喰ひ野焼の火
- 214 蛙てふ文字蛙の字に潜む
- 215 川底に平石ならべ水澄めり
- 216 河原の瘦せコスモスの咲きにけり
- 217 カンカンは太陽のこと夏帽子
- 218 寒月の監視下にある雪達磨
- 219 寒肥を遣り残したる木はないか
- 220 肝臓にご無理を願ひ歳の暮
- 221 肝臓のどこぞにしみる蜆汁
- 222 寒灯や脱ぎしかたちにシャツ置かれ
- 223 カンナの気持わかんないかなあ
- 224 寒梅の白告白とおなじ白
- 225 喜雨に身を打たるるままに農夫立つ
- 226 記憶合金のごと初蝶の翅かわく
- 227 幾何学が好きで三桎やつてます
- 228 利き耳は左右のどちら春の雷

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 229 聞き分け邯鄲蟋蟀饜虫
- 230 季語にあらず留守番電話の冷たさは
- 231 季語になりそこねて拗ねる竹とんぼ
- 232 傷だらけの人生子猫にひつかかれ
- 233 季節はどうなる雑炊を夏食へば
- 234 機智機智と飛んでばつたの駄洒落好き
- 235 きちきちやなにか叫びつつつ跳べる
- 236 啄木鳥さんそれはログハウスです
- 237 木の椅子のギイギイ緑蔭の指定席
- 238 昨日まで箱入り娘恋の猫
- 239 黄の音色高らか喇叭水仙は
- 240 きの芽かこの芽か木の芽の読み方は
- 241 生真面目な人なり姿勢良く昼寝
- 242 究極のダイエットなり水馬
- 243 窮屈をものともせず恋の紙魚
- 244 旧態依然の散り方をして大銀杏
- 245 器用貧乏麦笛もうまい
- 246 業務上過失頭に木の实墜ち
- 247 今日もまた外野を守り赤とんぼ

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 248 恐竜の子孫の蜥蜴岩をふ
- 249 曲目はふるさと楽器は草笛で
- 250 切り分けし西瓜の塔に種の窓
- 251 切り分ける音より迅く林檎の香
- 252 議論百出箱庭に置く橋の位置
- 253 銀漢や真闇の海に尾を浸し
- 254 近況を伺ふ前のまずづール
- 255 緊張の縄雪吊りの役を得て
- 256 銀杏にまたも逃げられ爪楊枝
- 257 銀杏の殻に火がつく精がつく
- 258 句会中大退屈のサングラス
- 259 草笛の鳴らなくなつてしまひけり
- 260 噓したとたんに忘れ噓の字
- 261 噓してビデオテープをまきをはる
- 262 草紅葉犬になにかをかけられし
- 263 串の字は象形文字よおでん食ふ
- 264 くたびれるなどとセータを擬人化し
- 265 口数の少ない人で桃の花
- 266 くちづけのしにくい鱈の口の形

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 267 くちびるや新酒の盃ににじり寄る
- 268 クツワムシ裸足のアベベのやうにかな
- 269 首たてにふつて納得ゆかぬ驢馬
- 270 首まはり塗り残したる雪女
- 271 雲の峰芯のあたりは固からむ
- 272 海月反転なにやらを期すること
- 273 繰り返しぶつかる闘牛の石頭
- 274 胡桃喰ふ右脳左脳を穿つて
- 275 クレーンのびる秋天の途中まで
- 276 クロモジやパンチパーマの花つけて
- 277 君で呼び老人大学卒業式
- 278 薫風と言ふべし厩舎から吹くも
- 279 薫風量産全山花蜜柑
- 280 携帯電話の画面はみだし大花火
- 281 毛糸玉激瘦せにして毛糸編む
- 282 軽量級の最右翼なる風花ぞ
- 283 激やせにして剪定の仕上がれり
- 284 下手人の心地してゐる毛虫焼
- 285 下駄の音殺して虫の闇に棲む

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 286 月光に解く鍵束の知恵の輪を
- 287 ケにアクセント鶯のホーホケキヨ
- 288 毛虫前進キャタピラのやうにかな
- 289 毛虫さんいつたいどちらがあたまなの
- 290 けら鳴くや無銭の語源などにされ
- 291 蹴る仕草蝌蚪に小さな脚生れて
- 292 喧嘩腰に生きるがさだめ枯蠍螂
- 293 けんかせぬやうどの地蔵にもみかん
- 294 玄関の鍵をまさぐる虫の闇
- 295 厳寒の声の尻切れトンボかな
- 296 げんげ田に寝しひとがたの残りけり
- 297 拳銃があるやも知れぬ懐手
- 298 兼題の栗に苦吟のイガ痛む
- 299 懸命に冷えて汗かきビール瓶
- 300 恋猫に包囲されたる一軒家
- 301 恋猫のしてゐることが猫の恋
- 302 恋の猫一糸纏ぬ声を出し
- 303 鯉幟風をまる飲みしてをりぬ
- 304 鯉の耳ぴくりと動く春の雷

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 305 高級感紙魚の衣装の銀色に
- 306 合コンの一種よ螢合戦は
- 307 降水確率百%運動会
- 308 降水確率百パーセントビアガーデン
- 309 航跡の萎めばたひら春の海
- 310 声のほか糞も降らせる百千鳥
- 311 珈琲のホットひと息冬初め
- 312 木枯らしさん裏木戸をこはさないで
- 313 凧の字は頬被りしてゐる木
- 314 木枯は送電線に来てとまる
- 315 虚空つかむかたちにひらき浪の花
- 316 此処は何処何時から此処に昼寝覚
- 317 コスモスの種のほどける自発的
- 318 ご先祖をずぶ濡れにして墓洗ふ
- 319 古茶の缶新茶の缶に棚ゆづる
- 320 小突かれてゐる風鈴の怠け癖
- 321 滑稽の「こ」の字も知らず高音鴉
- 322 今年こそ大跳躍の春の蚤
- 323 粉砂糖の仲間にあらむ初霜は

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 324 この駅の SL もつとも息白し
- 325 子の便り読む五月の畦に立ち
- 326 この人に出しただらうか年賀状
- 327 この人の口は大きいさくらんぼ
- 328 木の実落つ万有引力利用して
- 329 この実かきの実か木の実の読み方は
- 330 木枯し威張る第一号と呼ばれれば
- 331 媚の声威嚇に変はり恋の猫
- 332 コマクサ首振る風のハイハイドウ
- 333 狛犬の欠伸とまらず神の留守
- 334 コーラスの途切れてソロに虫の庭
- 335 こはごはと下界を覗きハンモック
- 336 強面もイケメンのうち達磨の忌
- 337 昆虫類整形外科目いぼむしり
- 338 蒟蒻の痛がつてゐる針供養
- 339 コンバイン秋夕焼を刈り尽くす
- 340 コンパスの違ひを悟り運動会
- 341 歳末の玩具売場の子を剥がす
- 342 さうめんや樋の清流のりこなす

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 343 魚うようよ水澄む川に眼の馴れて
- 344 さくら貝プラトニックラブの浜
- 345 さくらんぼ試食したので買ふはめに
- 346 酒断ちの地蔵の脇の酔芙蓉
- 347 笹鳴きの影は のやうにかな
- 348 雑踏のAとなりけりサングラス
- 349 里帰りとは大朝寝することか
- 350 里山へ延焼中の曼殊沙華
- 351 ザリガニやバケツに不協和音立つ
- 352 沢蟹の疑ひの眼のそろひ踏み
- 353 爽やかな声出しとちりアナウンサー
- 354 サングラス声を低めに設定し
- 355 残雪の左の脚が抜けました
- 356 残像を岩に置きけり青蜥蜴
- 357 サンタ苦勞す煙突の見つからず
- 358 参道を閑取がゆく若楓
- 359 三匹の亀の子のゐて同じ顔
- 360 産婦人科医院に生まれ燕の子
- 361 秋刀魚の解剖お箸のメス揮ひ

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 362 字余りとなりたる芽柳の俳句
- 363 幸せも死もシで始まるシクラメン
- 364 塩鮭や標本めきて吊下がる
- 365 潮満ち来水に飢ゑたる水雲らに
- 366 汐満ち来岸壁の牡蛎癒さむと
- 367 自覚なし宇宙めだかと呼ばれゐて
- 368 子規さんの下あご強し柿を食ふ
- 369 時刻まちまちいくつもの時計草
- 370 自己主張せねば目立たず高音鴉
- 371 獅子舞の口に噛ませて子のあたま
- 372 下闇に駐屯どくだみ十字軍
- 373 失踪の前歴のあるかぶと虫
- 374 自転車の手放し運転風光る
- 375 そばかすの女立つ蕎麦の花のそば
- 376 ジャパニーズ引き込むキングサーモンの馬鹿力
- 377 しばれるや刑事の縄を取り出せり
- 378 萎みたいときもあらうに水中花
- 379 しまひまで人間にらみ目刺の穴
- 380 しまひにはからまれてゐる初電話

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 381 四万十川の川面を均し光る風
- 382 紙魚と生れ活字離れの出来ぬかな
- 383 紙魚と生れ大言海を泳ぎゐる
- 384 尺蠖やメートル法の世を生きる
- 385 遮断機のもちあげてゐる秋の空
- 386 借金のたとへに迷惑雪だるま
- 387 石鱈玉爆ぜて大空濡らしたる
- 388 石鱈玉はじける俗世映しては
- 389 三味線も虫も「ね」と読む音の文字
- 390 三味を弾くぺんぺん草の実をつかひ
- 391 シャワー浴ぶ祈るかたちに立ち尽くし
- 392 ジャンケンの三極どれもチョキを出し
- 393 ジャンケンに負けて拗ねてるげんげ草
- 394 秋天をいけどるやうに投網打つ
- 395 終生を夜勤に励み油虫
- 396 諸葛菜未だ中国名名乗る
- 397 尺蠖やメートル法の世を生きる
- 398 呪と言うてバターの溶ける薬喰ひ じゅ
- 399 呪と言うて焚火は水を恨むなり

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 400 春愁のとどのつまりの大あくび
- 401 春昼の仔豚十匹同じ顔
- 402 省エネのきはめつきなり闇汁は
- 403 省エネ自転車北風に押されれば
- 404 しょうがない奴でも生姜掘るでしようが
- 405 情死てふ勇氣は持たず近松忌
- 406 障子洗ふまづは流れに溺れさせ
- 407 少女だてらに剛速球の雪つぶて
- 408 冗舌と寡黙と並びみる良夜
- 409 少年のゆびに撃たるる揚雲雀
- 410 上品に喰つても散らかり落花生
- 411 上流をめざすメダカの向上心
- 412 食道をずり落ちてみる寒卵
- 413 食用蛙疾うに帰化してみるはずの
- 414 助手席のひとを酔はせる葛の花
- 415 知らぬとは言へず前進道をしえへ
- 416 白泡上昇広告ネオンの生ビール
- 417 白いパラソル黒いパラソル吟行す
- 418 シロウオの不漁たくさん目を汲めぬ

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 419 しろがねの光となりて鮎跳ねる
- 420 しわくちやを褒められている干大根
- 421 新インフルでは決してないが水漬
- 422 新宿区渋谷区千代田区みな春めく
- 423 新酒仕込むぶつぶつ宇宙の音立てて
- 424 新酒注ぐ表面張力限界まで
- 425 新蕎麦の一本筈にしがみつく
- 426 死んだふりするのがうまい埋火よ
- 427 新調の燕尾服着てつばめ来る
- 428 甚平を着て人間が軽くなり
- 429 甚平を着て甚平の声を出す
- 430 新涼のゆふべの豆腐屋のぷああ
- 431 新涼の医師字余りの句をなほす
- 432 新緑や今年の闇を育てみる
- 433 しんしんは無音の表記雪降り積む
- 434 素足脱出皮靴の牢獄を
- 435 西瓜撲殺豪華客船の上甲板
- 436 スイッチオン鳴きはじめたるきりぎりす
- 437 水面を破りはせぬかあめんばう

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 438 スカートをめくる給水菊人形
- 439 スキー板穢る真白なるものに
- 440 杉花粉飛散花粉症悲惨
- 441 すぐとまる廻る気のない木の実独楽
- 442 スケートのリンクの往来危険罪
- 443 芒かななびき返して風を追ふ
- 444 鈴虫や声だけ聞かすシャイな奴
- 445 巣立ちの季語に進行形過去形
- 446 すつぱいの顔をして褒め夏蜜柑
- 447 ストープで炙るからだの裏表
- 448 砂粒まみれの三句を眺め休暇明
- 449 巣の燕最大限に口あける
- 450 スパイクの爪が痛いか春の土
- 451 すばしこいノロウイルスの風邪の菌
- 452 豆井戸に落ちて人魚となりし夏
- 453 スリッパがいちばん怖い油虫
- 454 することのたくさんあつて日向ぼこ
- 455 するするはとかげのためにあることば
- 456 スローモーションで置く初釜の井戸茶碗

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 457 頭を低くして蝉時雨くぐりけり
458 正義漢らしきが蹴つて毒きのこ
459 青春の一ページてふ紙魚の恋
460 成人日僕が私に変はりたる
461 制服めきぬ団体の宿浴衣
462 制服は伝統の縞山西瓜
463 西洋と名づけタンポポ帰化させず
464 精力をつけむと鍋の泥鰌掘る
465 セーターを編み上げ恋のをはりかな
466 背泳ぎの臍を見られてしまひけり
467 席はずすやうに蜻蛉とび去れり
468 絶叫をかたちにすれば鴟の糞
469 節分の鬼は原色赤と青
470 節分やうぶな青鬼赤くなる
471 背中ぜんたい秋風に押される
472 背に腹は変へられぬてふイモリなり
473 蝉殻をぬぎつつあればセミヌード
474 先生の胸が的草矢射る
475 仙人の食ひ残したる霞かな

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 476 先発登板今年も櫓の初紅葉
477 扇風機談判の座に首を振る
478 煎餅を糞に加工の奈良の鹿
479 千枚田数へるために燕来る
480 相対性理論銀漢の果てにある
481 相談をうけて夜長を使ひきる
482 走馬灯止まれば昼寝するうさぎ
483 ソーメンや樋の清流のりこなす
484 俗世に興味津々地虫出づ
485 俗世の路地に売らるる山あけび
486 俗世のゆがみを写し露の粒
487 そこらぢゆうの光あつめて福寿草
488 そのあとの仔細は不明恋螢
489 その声も長く伸ばして蚯蚓鳴く
490 そばかすの女立つ蕎麦の花のそば
491 剃りあとの顎の青々淑気満つ
492 剃り剃りの音にはじまり初鏡
493 存じあげません竹夫人てふお方
494 大が兄小が弟つくしんぼ

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 495 第九歌ふ指揮はおでんの串なりし
- 496 第九てふ二文字師走の季語とせむ
- 497 大根が一番重い特売日
- 498 大根を地球を奪ひあつてゐる
- 499 体重ほど穂を撓ませて稲(雀
- 500 颱風にドミノ倒しとなり花野
- 501 台風のアトの一家のお片付け
- 502 台風の目ン玉を射る予報官
- 503 台風の眼と言ひ野分の眼と言はず
- 504 田植機の田植糸の実に機械的
- 505 高足の蟹出迎へてすぐ逃げる
- 506 たかが深爪それが春愁
- 507 たかんなの発射寸前とも見えて
- 508 滝音を離れ俗世の人となる
- 509 滝壺や水の柱を立ててゐる
- 510 沢庵の大根お仕置石を抱く
- 511 卓上の桃の蕾はこぼれたい
- 512 卓上にひとつの林檎ひとつの影
- 513 竹の子といへどもすでに毛むくじやら

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 514 筍はその字からして旬のもの
- 515 たけのこを掘りにのこのこついでゆく
- 516 竹の春てふ植物界の天邪鬼
- 517 漂へる電気くらげに部品かな
- 518 立つてる者は親でも使ひ炬燵の子
- 519 脱皮する心地してゐる更衣
- 520 建て付けの悪しきを狙ひ隙間風
- 521 縦ですか横ですか太刀魚の泳ぎ方
- 522 種なしの葡萄に種のありにけり
- 523 束に入る遅れ着きたる年賀状
- 524 誰よりも君をアイスクリームかな
- 525 たわわてふ言葉は柿のためのもの
- 526 天道虫転倒虫となり逃げる
- 527 たんぽぽのやうに生きよと地を叩く
- 528 たんぽぽのわた毛を吹けば芯残る
- 529 談話室と化し夕立の雨宿り
- 530 誓ひとはむなしきものよ禁煙デー
- 531 地球儀の虫啓蟄の日本列島は
- 532 竹林と春の蚊の刺す竹の秋

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 533 ちちぶさを子にあづけゐる豊の秋
- 534 血の気失ひしか白き彼岸花
- 535 着地点未だ決まらず石鹼玉
- 536 チューリップたしかに長い花の下
- 537 朝刊の見出しに笑ひバナナ剥く
- 538 町村合併のごたごた知らず赤のまま
- 539 跳躍は得意の種目雨蛙
- 540 直線となりきり走る青蜥蜴
- 541 散るさくら一途に先をあらそへる
- 542 チルドレンとは冷凍会社の阿波踊
- 543 陳情の短冊笹にぶらさがる
- 544 つかひ捨て懐炉発車まぎはに貰ひたる
- 545 突き上げを食ひ噴水の高あがる
- 546 突き刺して冬三日月のカボチャかな
- 547 継目なく秋思に続く秋愁
- 548 土筆一族袴に威儀を正しゐる
- 549 桜貝ひろふ繋がれし手ほどき
- 550 土の雛美男美女とは言ひがたき
- 551 爪弾きの三味の音続く梅雨の宿

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 552 つめたいおびいるとびいるにおをつけて
- 553 梅雨激し突然恋をしたくなる
- 554 吊革や汗の人間ぶらさげる
- 555 連尿の会話のはづみ天の川
- 556 積読の本も曝書をせにやならぬ
- 557 「積ん読」を辞林に見つけ秋の夜半
- 558 手編みマフラーお誕生日の首絞める
- 559 Tシャツのサイズは青がエルなんです
- 560 定員を超過してゐる掘炬燵
- 561 低音の方がほんとの雪女郎
- 562 低姿勢なり合図待つスケーター
- 563 敵意剥きだし枯蠶螂にはあれど
- 564 手品には種あり葡萄に種のなく
- 565 手品師の霧大型フェリー出す
- 566 鉄塔が気に入つてゐる寒鳥
- 567 鉄の鍋月に傾け磨きけり
- 568 鉄砲百合抱へ銃砲不法所持
- 569 でで虫の軌跡や紆余と曲折の
- 570 でで虫や沈黙と言ふ意思表示

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 571 手と足のばらばら事件盆踊
- 572 手に汗をにぎるの汗は季語ならず
- 573 掌に載せて同じ重さの柿ばかり
- 574 てのひらを焦がすか赤い烏瓜
- 575 てのひらをくまなく調査天道虫
- 576 手花火の痕跡犯行現場めく
- 577 手袋のゆびの先端行きどまる
- 578 手袋の片つ方早くも未亡人
- 579 手短が得意な人の御慶かな
- 580 天金を天銀と化し辞書の黴
- 581 点矢気の音の高らか梅雨晴間
- 582 天使魚の自由を奪ふことの罪
- 583 天井のオスのネズミも嫁が君
- 584 天高く馬はダイエットなどしない
- 585 電柱でござると威張り寒烏
- 586 点滴も滴りのうち診療所
- 587 天道虫転倒虫となり逃る
- 588 ドイツ製ライター枯野に火放つ
- 589 冬瓜は秋の季語です夏食べる

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 590 凍死てふ季語に眼鏡をかけなほす
- 591 盗賊泣かせこれほどの名月は
- 592 どう見ても垂れ眼ナス型サングラス
- 593 蠮螋や斧の素振りを怠らす
- 594 蠮螋の交尾凶器ふりかざし
- 595 灯籠のひとつは流れたくないか
- 596 問へば眼で答へてくれしマスクかな
- 597 毒見とは味見のことよ露の味噌
- 598 とぐる巻く雪吊る縄となるまでを
- 599 何処が違ふの新蕎麦のざるせいろ
- 600 ところてんすすり終つたところでん
- 601 どしゃぶりとなりたる蝉の時雨かな
- 602 年忘れお幾つですかと問はれても
- 603 トタン屋根光らせ薄暑製造所
- 604 とつくりのセーターを編む首つ丈
- 605 突然死逃れて老衰ゴム風船
- 606 土手に生ひ姓は杉菜の土筆かな
- 607 届きけり水もしたたる初かつを
- 608 どの蝌蚪も全身でいやいやをして

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 609 どの口も開ききつたる燕の子
610 どの鳩もうなづき歩く小春の日
611 どの花もほめてやりますチューリップ
612 どの人も前傾姿勢牡蠣啜る
613 飛ぶ燕地に糸痕をつけにけり
614 飛ぶ棒が語源の蜻蛉飛びみたる
615 とまり方知らぬ竹馬前進す
616 土用浪飛沫を空に置き去りに
617 虎の尾の幾頭分や吹かれぬ
618 ドレミファの長短光る軒氷柱
619 泥棒の眼つきで見上げ熟し柿
620 団栗を降らせ放題トタン屋根
621 とんばうの疑心暗鬼の眼がうごく
622 とんばうの空中給油してをりぬ
623 ナイフに従順林檎の皮するる
624 流れ星闇の途中にひつかかる
625 流れゆくほうたる水を焦がしつ
626 なぜ空は青いのだらう籐寝椅子
627 夏掛けの布団蹴られるためにある

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 628 夏木立蝶に続いて補注網
- 629 夏蝶を出したり入れたり夏木立
- 630 夏服の去年の皺を着て歩く
- 631 なにか言ふかに水仙の丸い口
- 632 なにがしの重さありけりしやぼん玉
- 633 なにもないことの豊かさ夏座敷
- 634 なにやらを浮かべた立あとの川
- 635 鍋底の蒟蒻隠れておでんかな
- 636 怠けくせ治らず春の海のたり
- 637 波打ち際を目指す子亀の一目散
- 638 鳴子鳴る紐の手ゆるめたるときに
- 639 縄跳びの縄元々は只の縄
- 640 なんでせう花火が簾にかはる実は
- 641 なんとなくこそ泥めいてゐる夜食
- 642 賑やかや一人静の群生は
- 643 逃げ足の六本見せず油虫
- 644 逃水は神のお洩らしかも知れぬ
- 645 逃水がゆく吾と等間隔保ち
- 646 逃げる水あれば追ふ水春の川

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 647 二三匹群よりはづれ鰯雲
- 648 二進も三進も行かず年の瀬にのりあげて
- 649 日本は夜尿布団の地図のここ
- 650 二の腕に裏表ある晩夏光
- 651 二の腕のA面ことに日焼けせり
- 652 二分咲きか三分咲きかをあらそへる
- 653 二辺より一辺近し刈田道
- 654 入学の子にランドセルとりつける
- 655 庭のあちこち蝉の木を植ゑてある
- 656 人間として翡翠の視野にゐる
- 657 人間はことごとく敵子猫咬む
- 658 人間を蹴る馬のゐて天高し
- 659 大蒜のみんなで食へば怖くない
- 660 盗人萩名誉毀損の呼び名では
- 661 布引滝よりほつれ水の糸
- 662 布引の滝縦縞でありにけり
- 663 濡れ衣となるが定めの出初式
- 664 濡れ場なりプールの更衣室もまた
- 665 ネイティブの英語で笑ひサンタさん

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 666 ネクタイをほどくにも手間新社員
- 667 ねこじえらし猫にも嫉妬の心あり
- 668 鼠色してても猫柳と呼び
- 669 熱気球浮かぶ浅春の空温めんと
- 670 年齢の多いが自慢敬老日
- 671 農道に蜜柑ころがるもつたいない
- 672 脳味噌の軽くなりたる冬日向
- 673 軒氷柱長短イチオクターブほど
- 674 残る鴨遠近に浮き相寄ず
- 675 長閑てふ季語や怠惰のひそみある
- 676 のどちんこならべ燕のこどもたち
- 677 のどのおくまであきかせ
- 678 喉の奥ひらききつたる秋の鶏
- 679 野原大学音楽学科草笛奏法研究生
- 680 飲みさしのコカコーラだよコラコーラ
- 681 野分晴音にするならあつけらかん
- 682 梅園へ大矢印に案内さる
- 683 俳句があればなんにもいらぬお正月
- 684 這ふといふかすくふといふかつばくらめ

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 685 四月馬鹿詐欺に師の字をつけて呼び
686 吐く息の白きを牛の舌舐める
687 白菜の脇に白葱すべり込む
688 爆発寸前の原子爆弾烏瓜
689 箱眼鏡角ばつてゐる顔を嵌め
690 バスが来る時雨の傘を畳まねば
691 パソコンで言えばフリーズ凍鶴は
692 裸木の腰のあたりが二股に
693 裸子を取り逃がしたる警察官
694 はたきかけるみたいにせはしてふてふは
695 蜂の巣に近づいてゐる宇宙服
696 初鯉どんと俎板おしつぶす
697 初鯉およがせおしまひの茶漬
698 初氷はがきにうれしさうな文字
699 初蝶に受粉作業を教へねば
700 初蝶のためらひ風の誘惑に
701 初蝶やひかりの欠片撒き散らし
702 初電話もらつてけてもかけて初電話
703 初の字のついて値打ちの時雨かな

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 704 初夢のつづきは獺に喰はれけり
- 705 鳩の群小春の空を乱しけり
- 706 花あふち真闇の一部分照らす
- 707 花疲れらしき御一同様の黙
- 708 鼻の穴馬にもふたつ息白し
- 709 花の名を忘れてしまひ勿忘草
- 710 花の名を問はれ紫蘭と答へけり
- 711 花野人とは忽然と現れる人のこと
- 712 パニックとなり焙烙の木の実たち
- 713 羽抜鶏羽抜けの影を連れ歩く
- 714 葉の色をして葉の上の雨蛙
- 715 八モ二カを吹くかに啞へ玉蜀黍
- 716 三味を弾くぺんぺん草の実をつかひ
- 717 早う来てからだ炙れと炉辺の祖母
- 718 バラの芽にとんがる未来ありにけり
- 719 ばらばらに舞つて一群わた虫は
- 720 ばらばらに散るのが薔薇の語源とも
- 721 ばらまいたやうに昼寝の大家族
- 722 バリカンのやうに稻田のコンバイン

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 723 春一番きつとさうだと思つたの
- 724 春一番追ひ風参考になつちやつた
- 725 春蝉が夏の季語とは知らなんだ
- 726 春の田の空は燕に所有権
- 727 春の月歩幅にゆれてをりにけり
- 728 春の日の余白に座してをりにけり
- 729 春の水押すな押すなと流れゆく
- 730 春一人槍投げいつか投げ槍に
- 731 春めくと少女のまつ毛そり返る
- 732 ハンカチにあふがせてゐるあぎとかな
- 733 ハンカチの持ち主を問ふ枯野かな
- 734 ハンカチの木の緑陰に汗ぬぐふ
- 735 万巻の書を食ふ紙魚の無教養
- 736 半身を宙にはだけてかたつむり
- 737 半仙戯は気分ぶらんこはかたち
- 738 ハンモック僕は宇宙のひととなる
- 739 万里の長城も長いが蟻の列も長い
- 740 日脚伸ぶ尺貫法で一二寸
- 741 ピアニストピアノの上に薔薇を置く

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 742 ビー玉にいぢわるされてラムネ飲む
- 743 冷えきつてしまへば死骸紙懐炉
- 744 被害者の立場の呼称蟻地獄
- 745 蟾蜍字も難しき面構へ
- 746 引潮の磯を調べる春の蟹
- 747 ひきぬけば家系図のやう落花生
- 748 引く蔓に連なり諸の一族よ
- 749 ヒグラシや切れ字のかなをひびかせる
- 750 久しぶりにおの字をつけて暖かし
- 751 氷雨てふ季語夏冬兼用か
- 752 肘張つてこの池を出ずあめんぼう
- 753 引越の荷の中に寝て明易し
- 754 ひつち田の羊に足をとられけり
- 755 ひどい命名へくそ葛と盗人萩
- 756 人うごきをり雪嶺の紙魚として
- 757 ひと口に食ふ枝ぶりのよきパセリ
- 758 人声に耳を敬て水芭蕉
- 759 ひとさしゆびいそぎんちやくに食べさせる
- 760 ひと束と呼ぼうか椿の花の薬

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 761 ひとつづつ硬さをしらべ石叩
- 762 ひとつでも十分辛い唐辛子
- 763 ひとつぶはいちまいのこと木の葉雨
- 764 ひとつところ骨折をして秋団扇
- 765 ひとまたぎすれば流れる春の水
- 766 美男葛をんなの句座にまぎれ込む
- 767 雲雀野となれり雲雀を空に吊り
- 768 ひまなはず忙しさうな冬の蠅
- 769 ひまはりのバックの空をぬりたくる
- 770 日短やだれにも気短になる懼れ
- 771 百姓饒舌新米嚙んで見せ
- 772 風信子はしかの子ではありませぬ
- 773 百本の足をそろへて百足来る
- 774 秒針の音はたてずに時計草
- 775 表面張力新年会の榊酒の
- 776 疲労骨折五月雨の傘の骨
- 777 ひろげたりたたんだりして日傘売
- 778 壇の背に空輸てふ文字ボジョレ又ボ
- 779 貧貧とその日暮しの蝉たちは

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 780 Vの字に耀く蛇わたる川の面は
- 781 プールサイドの水も滴るいい男
- 782 深沓をギブスのやうに穿いてゐる
- 783 深剃りの顎の青々夏近し
- 784 複雑な関係といふ藤の蔓
- 785 腹背の敵吾を狙ふアカイエカ
- 786 福耳にかぶせてしまひ耳袋
- 787 梟と読む木の上に鳥のせて
- 788 藤の蜂頭隠して尻隠さず
- 789 襖四枚どこかへ隠し夏座敷
- 790 ふたあつの日傘ひとつはよく動く
- 791 舞台装置は漆黒の闇神楽の夜
- 792 ぶち切れのごとくに弾け鳳仙花
- 793 太くてもなぜか書かれて糸の瓜
- 794 ふところの今川焼のあちちち
- 795 ふともものはちきれさうに風薫る
- 796 踏まれてもなほ熟睡の昼寝人
- 797 冬の禽声あくたびに水を飲む
- 798 冬の蠅残るいのちをひきずれる

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 799 ぶらんこよろこぶぎいぎいよろこぶ
- 800 フリージア退職の日にもらひけり
- 801 ブリキ製湯たんぽにあるあばら骨
- 802 ブリキの金魚夜店に泳ぎをりにけり
- 803 ふるさとのかいまき布団の下敷に
- 804 ブロッコリーは萬緑新緑がパセリなら
- 805 噴水の頂点にある挫折かな
- 806 噴水の噴天を突き憤る
- 807 塀の外見たくて背伸び吾亦紅
- 808 平伏のわりに強気よ水蜘蛛は
- 809 紅の字にとまどふ白の百日紅
- 810 蛇瘦せて縦じまの粹ひきずれり
- 811 暴虐の滝水滝の壺犯す
- 812 帽子屋の鏡に映る夏帽子
- 813 鳳仙花はじける自暴自棄となり
- 814 抱負をならべ元旦の大風呂敷
- 815 焙烙の胡麻パニックにぎやかに
- 816 焙烙の銀杏の大パニック
- 817 鬼灯のすでに臨月らしき色

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 818 僕は読書だ啄木鳥は木をつつく
- 819 ほこり高き夏の季語なり眼薬は
- 820 舗装路を新品にして喜雨あがる
- 821 干し柿のもととは言へば吊るし柿
- 822 ボツの句や初の字つけておめでたき
- 823 ほほゑんでみる毛虫焼く令夫人
- 824 頬被すれば大泥棒気分
- 825 頬杖の何本も要る春愁
- 826 法螺をふき大根を吹き夜の更ける
- 827 惚れ薬入れてバレンタインの箱
- 828 ほろほろは苦さの形容落の薑
- 829 本日の話し相手は冬の海
- 830 盆の窪あたりに着地風邪の神
- 831 枚数で数へるべきや木の葉髪
- 832 マイペース天道虫のせかせかは
- 833 蒔かれたる花種土に雲隠れ
- 834 真四角のかたちに生れ青田風
- 835 街角やミニはミニでもシクラメン
- 836 みづうみのおもてを汚し大夕立

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 837 松手入女松脱がせてしまひたる
- 838 松葉杖つき接骨木の花に寄る
- 839 招きつつ逃げて行くなり汐まねき
- 840 マフラーの巻きかた案外難しい
- 841 マフラーの片端ひだり肩にのる
- 842 まゆはきの名もやはらかき花薊
- 843 マラソンの最後の子にはビリ等賞
- 844 　　　　　に灯りキャンプ場
- 845 　　　の意味団扇の団といふ文字に
- 846 丸めても畳むと言へり花筵
- 847 マロニエはホワイト橡の花真白
- 848 万愚節真顔で話すのが危険
- 849 満場一致で罵られみる暑さかな
- 850 見上げみる虹の科学を理解せず
- 851 見えぬ糸なり雲雀を天に吊り
- 852 身重感熟しきつたる糸瓜にも
- 853 三日月の刃の切れ味は抜群ぞ
- 854 身軽とは冬のすすきのことならむ
- 855 みずうみのおもてを磨き寒月光

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 856 みづうみのおもてを汚し大夕立
- 857 水音をびいじいえむに水芭蕉
- 858 自らは動かず校庭の半仙戯
- 859 みづからを死体遺棄して油蝉
- 860 水つ洩美人のママを懲らしめる
- 861 見た眼には硬そに光り心太
- 862 みだれ萩抱き起こすときこぼれ萩
- 863 見届ける雪崩の起承転結を
- 864 水底のほどなく澄んで蝌蚪の国
- 865 水面こそばゆし柳にくすぐられ
- 866 蓑虫のデートは揺れつばなしなの
- 867 蓑虫や宇宙の裾にぶらさがる
- 868 蓑虫に聞かれてをりし立ち話
- 869 蓑虫の兄弟喧嘩どうやるの
- 870 蚯蚓腫れ季語の蚯蚓の傍題の
- 871 蚯蚓腫れの蚯蚓に季節感あらず
- 872 耳つちい話で迎へ兔歳
- 873 耳の字を幹に取り付け茸山
- 874 見渡すかぎり麦秋

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 875 みんなと鳴く蝉吾を見てをりし
- 876 ムーンライト浴びるそなたはベートーベン
- 877 むかごてふ虫を炊き込みむかご飯
- 878 麦笛の出る音全部突拍子
- 879 麦藁帽風の誘ひに乗りたがる
- 880 無月なり月あるごとくソナタ弾き
- 881 虫入れて重くなりけり虫の籠
- 882 虫も体操ぼうふらのスクワット
- 883 ムシャムシャのあとのムニャムニャ豊の秋
- 884 無尽蔵とは水つ洩のことなりし
- 885 むずがゆし蝌蚪に手足の生えかかり
- 886 むずむずとしてものの芽になりあたる
- 887 胸そらし風に抗ふ秋あかね
- 888 むねに脚あつめて蝉の骸かな
- 889 胸を張る宇宙メダカの子孫だと
- 890 村いちばんの美人も彼岸墓の中
- 891 紫を紅と言ひ張り吾亦紅
- 892 明治の気骨帯に受け継ぎ更衣
- 893 名誉地位財産要らず草の花

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 894 迷惑のめの字も知らず浮かれ猫
- 895 目配りに抜かりはあらず懐手
- 896 目覚まし時計叩いてなほす万愚節
- 897 飯食つて行方不明の帰省の子
- 898 目高には目高の都合群れて去る
- 899 眼つき鋭し笑ひゐるサンタさん
- 900 芽柳の直線曲線となりたがる
- 901 メル友のなかなか寝ない夜長かな
- 902 めんこい仔馬四肢はづませてはづませて
- 903 もういいと言ふのに食へと草の餅
- 904 もういくつ寝るとお年玉
- 905 猛獣の爪を持ちゐて仔猫かな
- 906 濛濛のけむりに背き野焼人
- 907 モーグルといへど潜らぬスキー板
- 908 もぎたての枇杷です少し固いです
- 909 文字決して簡単ならず邯鄲
- 910 文字通り丘を引きずる蚯蚓かな
- 911 鴟高音町の東西南北に
- 912 黙考の沈思に籠る梅は実に

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 913 もつてのほかよもつてのほかを食はぬとは
- 914 紅葉且つ散る樹木にもながら族
- 915 揉み手では売らず手揉みの新茶
- 916 山羊の子のよろめき立てば風光る
- 917 矢車かきまはす青空の一部
- 918 瘦我慢とは寒泳のやうなもの
- 919 奴胤地に堕ちてなほ空威張り
- 920 屋根に降る木の実の音に遠と近
- 921 山の端はステージの袖鳥帰る
- 922 闇にうでさしこんで剪る七変化
- 923 ややあつて音をひきずり遠雪崩
- 924 折れば血の出さうな色の寒椿
- 925 遊泳はうまい世渡り下手なひと
- 926 夕立の雨足ビニール傘に透け
- 927 浴衣てふもの棒立ちに着せらるる
- 928 雪靴の雪雪靴で掻き落とす
- 929 雪女郎抱いて全身凍傷に
- 930 雪虫らわが眼前を掻き回はす
- 931 ゆずの実の軽さをてのひらにのせる

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 932 柚子を摘む皮手袋も柚子の色
- 933 茹であがりけり川蟹の毛むくじやら
- 934 湯豆腐を食ふや熱さ罵りつ
- 935 ゆびさきをのがれしほたるゆびのうら
- 936 ゆびを刺す意図のありあり木瓜の棘
- 937 容赦せず父撃つ吾子の雪礫
- 938 陽暦の世に陰暦の五月雨
- 939 横笛の首たてに振る秋祭
- 940 よせかへす根気の良さや春の海
- 941 寄せるとは砕けることよ冬の波
- 942 世の中を陽炎として歪ませる
- 943 世の中を曖昧模糊にして黄沙
- 944 嫁が君里帰りしてそれつきり
- 945 寄らば斬るかまへ崩さず枯蠶螂
- 946 雷鳥を容れ這松の知らん顔
- 947 ラムネ飲む兄とならんで胸叩き
- 948 ラムネ飲む途中返事は出来ません
- 949 ラムネ飲む邪魔となりたるラムネ玉
- 950 ランドルト環敷き詰め蓮の開花かな

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 951 力みすぎ蛍の空を掃く箒
- 952 律義者春には春の風邪をひき
- 953 立冬や尺貫法で五合呑む
- 954 良夜なり男三人争へる
- 955 離陸せり夏草原を傾けて
- 956 離陸せり陽炎の壁突き破り
- 957 林檎剥くひとふでがきの皮たらし
- 958 レコードの擦り切れてゐる盆踊
- 959 檸檬てふ文字に果汁のぎつしり感
- 960 檸檬ひとつ傷つけ旅の朝はじまる
- 961 練炭の穴の数はと問はれても
- 962 朗詠のしまひをしゃくり歌始
- 963 浪曲の虎造ばかりお正月
- 964 牢獄の鉄の格子のごと氷柱
- 965 老木も若木もみんな若楓
- 966 若い時分はかなりのワルで生身魂
- 967 わが影に先導される月の道
- 968 若草のクッション靴をはづませる
- 969 若さとはとんがることよ木の芽風

八木健の滑稽 1000 句 五十音順

- 970 若葉なりどれも葉裏に翳を持ち
- 971 忘れものさがしにもどり冬の蠅
- 972 私のどこかに殺意とりかぶと
- 973 私の煩惱いくつ除夜の鐘
- 974 私は優柔不断残り鴨
- 975 わたくしは櫂ですどうもすいません
- 976 綿虫を数へることは出来ません
- 977 蕨てふ地名なれども薇も
- 978 笑ふともふくれ面とも焼餅は
- 979 悪企みするなら今よ神無月
- 980 吾と眼の合ひたる金魚そつぽ向く
- 981 吾を見る蟹疑ひの眼を揃へ